

## 第61回舞踊学会大会（つくば大会）概要

# 「クロスオーバーする 身体が拓く新たな地平」

2009年12月5日・6日（筑波大学）

### 《大会概要》

第61回舞踊学会大会は、12月5日（土）・6日（日）の2日にわたって筑波大学を会場として開催された。12月に入り寒さが心配されたが、2日とも晴天に恵まれた暖かなつくばに、全国から約150名の参加者をお迎えすることができた。

筑波山を背景に田園風景が広がる自然と科学が調和した新しい学園都市つくば。筑波エクスプレスの開通で都心から近くなり、急速に発展してきているが、会場となる筑波大学付近は交通の便が悪く、またキャンパス内は広くてわかりにくい。まずは、つくば駅に到着した参加者が無事会場となる大会会館に来ていただけるよう、その案内・誘導隊を送り出すことから大会が始まった。主な大会プログラムや昼食・夕食会場となる交流広場などすべて大会会館内にまとめ、参加された皆様がいつまでも会場にいたいという心地よい空間になるよう、「いつでもどこでも交流広場」を合言葉に準備を進めてきた。

本大会の主なプログラムは、会員による一般研究発表28演題、大会テーマ「クロスオーバーする身体が拓く新たな地平」を受けたシンポジウム、そして、それを実感していただくダンスパフォーマンスで構成した。

ここでは、この後に報告するシンポジウム以外の主なプログラムについてその概要を報告する。

### 《一般研究発表》

大会初日と2日目（12月5-6日）の午前に行われた一般研究発表は、当初の予想を越えた発表申込があったため、3つの会場で行うこととなった。また、3会場になったことに併せて、会場ごとに、舞踊芸術・美学関連分野、舞踊運動・身体関連分野、民族舞踊関連分野、舞踊教育関連分野など、多様な舞踊学の中でも近接した研究領域別に分け、分科会形式の試みでプログラムを構成した。それぞれの会場では、座長を担当して下さった先生方の進行のもと、いずれも活発な発表・討議が展開され、多くの質問が飛び交っていたようである。なお、本大会の研究発表28演題の抄録は、本誌に掲載しているので参照されたい。

### 《ダンスパフォーマンス》

大会2日目（12月6日）の午後、大会を締めくくるプログラムとして大会会館ホールで行われたダンスパフォーマンスは、上演を通して大会テーマである「クロスオーバーする身体」を体

感していただけるよう企画した。最初に、本学の舞踊実技の授業受講者を対象にレクチャーデモンストレーション（指導法発表）があり、次に学生企画による学内パフォーマンス『ダンスのたまご vol.12』の公演、最後は、本学平山素子によるスペシャルパフォーマンスという多彩なプログラムで展開した。前日のシンポジウムで白熱した議論がクロスオーバーしたホールは、ここではパフォーマンスする身体、踊る身体が挑み、躍動する空間となった。なお、この上演は、毎年秋に開催している学内公演『ダンスのたまご』を兼ねていたため、一般公開とした。

### ■レクチャーデモンストレーション

#### 「体育専門学生を対象にしたダンス指導法発表」

指導 村田 芳子 寺山 由美（筑波大学）

出演 平成21年度舞踊演習（学群）・舞踊教育論実習（大学院）受講生 約30名

ダンス教育の実践において「自由に踊る身体」「他者とかかわる身体」「変幻自在に変化できる身体」が重要であることは言うまでもない。将来は、学校現場での体育教師や地域でのスポーツ指導者を志す本学の学生たちには、「踊れて（実技力）、語れて（理論）、指導できる（指導力）」を目指して、ダンスの授業に取り組んでいる。

今回の発表は、本学体育の学群生と大学院生が合同で行う通年のダンス実技の授業で、村田と寺山が2人で担当している。学生は、3分の1が舞踊専攻生、その他の3分の2は舞踊経験のほとんどない体育の学生である。授業では、体ほぐしから始めて、毎時間典型教材や多様なテーマを取り上げて即興的な活動を中心に展開している。

発表では、この授業の中から体ほぐしの活動から始まり、『対決』『体の部分を使って』『見る』のテーマから即興表現の活動をダイジェストで展開した。狭くて足場の悪い舞台ではあったが、学生たちは緊張しながらもそれぞれが持てる力を精いっぱい出し切り、踊り切った。自由に他者とかかわり合いながら「踊る身体」の実際の姿と、それを引き出し変化させていく指導者とのやり取りの一端を見ていただくことができた。



手を意識して、自由に感じあって踊る

## ■学生企画によるダンスパフォーマンス

「ダンスのたまごvol.12」-舞踊学会スペシャル-

主催 筑波大学舞踊研究室

出演団体

体育専門学群・運動伴奏法授業作品（指導 石淵 聡）

芸術専門学群・造形パフォーマンス授業作品

（指導 逢坂卓郎）

粕尾 将一（フリースタイル縄跳び）

小芝居集団コーンポターージュ

筑波大学体操部

舞踊研究室&体育専門学群生有志

筑波大学舞踊研究室

筑波大学ダンス部

今年で12回目を迎える本公演は、秋の学内公演として毎年様々な身体表現の実験的なパフォーマンスを行ってきたが、今回は舞踊学会スペシャルとして企画し、学内を始め全国から大会に参加した皆様にも見ていただくことになった。公演テーマも大会テーマを受けて「クロスオーバーする身体」とし、ダンスだけでなく体操や縄跳び、コントなどのチームが揃い、身体による多様なパフォーマンスが繰り広げられた。授業作品では、楽器の演奏・声と身体のコラボによる運動伴奏法の作品が、また、芸術専門学群の造形パフォーマンスの椅子と机を使った作品が披露された。

## ■スペシャルパフォーマンス

「After the lunar eclipse / 月食のあと」より

暗闇で身体は微動の変化を遂げ、光の洪水とともに永遠を奏で始める。

ダンス：平山素子

ライトアート：逢坂卓郎

衣裳：スズキタユキ 音楽：落合敏行

2009年12月19日&20日、愛知県芸術劇場小ホールにて初演。今回はそれに先駆けてその作品から抜粋して上演された。闇の中でかすかに光る様々な色、次第にその光が変幻しながらダンサーの身体を映し出していく。その妖しくも幻想的な異空間に不思議な感覚を味わった、贅沢な時間であった。



ダンスとライトアートが創る異空間の世界

## 《交流広場》

この大会では、参加者が相互に交流し親睦を深められるような「いつでもどこでも交流広場」を運営の特色とした。そのシンボルとして、全面がガラスで囲まれた交流会館ラウンジを2日間の昼食及び懇親会の会場とし、つくばの食を集め、学生たちの踊りを企画した。筑波ハムやパン、デザートまで、和洋中華の多彩な品々をいろいろなお店から外注・調達し、その苦勞のかいあって、交流広場は毎回満員盛況、事前申し込みの人数をはるかに上回る延べ160人の方が足を運んで下さり、ガラス越しのダンスパフォーマンスを観ながらの憩いの場所となった。



昼食の交流広場、明るい太陽の光を受けて



ガラス越しのダンスを観ながらの夜の懇親会

## 《大会を終えて》

第61回大会を筑波大学で開催することが決まってから約2年、筑波大学は2度目の開催ということであるが、舞踊の教員はすべて変わったためゼロからのスタートとなった。片岡先生はじめ担当理事の先生方にアイデアやアドバイスをいただきながら、大会の全体像ができてきたのが1年前、そうして大会へのカウントダウンが近付くにつれ、実行委員の先生たちと学生の組織ががっちり動き出し、ようやく大会当日を迎えることができた。そして2日間はあっという間に終わってしまった。大会の準備と運営は大変であったが、舞踊研究室の院生を中心にダンス部も含めた約40人の学生たちの見事な働きに感心し、彼らとひとつになれる機会を持てたことは何よりの幸福であった。ここまで導いてくださった古井戸会長と担当理事の先生方に心から感謝したい。

（文責 村田芳子）

<第61回舞踊学会大会実行委員会>

【担当理事】片岡康子 石井達朗 細川江利子

【実行委員】村田芳子（委員長）平山素子

寺山由美（事務局）田巻以津香

田中葵